

# 令和5年度 第1回士別市中央公民館運営審議会議案

【日 時】令和5年6月8日(木) 午後4時～

【会 場】市民文化センター1階 研修室

1. 開 会

2. 委嘱状交付

3. 教育長挨拶

4. 委員及び職員紹介

5. 委員長及び副委員長の選任について

6. 委員長挨拶

7. 議 事

(1) 令和4年度士別市中央公民館事業報告について

(2) 令和5年度士別市中央公民館事業計画について

(3) その他

8. 閉 会

## 【添付資料】

- |        |              |        |
|--------|--------------|--------|
| ■令和4年度 | 中央公民館事業報告    | ・・・資料1 |
| ■令和5年度 | 中央公民館事業計画    | ・・・資料1 |
| ■令和4年度 | 中央公民館分館事業報告  | ・・・資料2 |
| ■令和5年度 | 中央公民館分館事業計画  | ・・・資料3 |
| ■令和5年度 | 中央公民館運営方針(案) | ・・・資料4 |

## 中央公民館事業 報告・計画

番号	事業名	担当	事業内容	対象	R4実績			R5計画		
					参加人数 実施回数	決算 (千円)	成果・課題	想定 人数/回数	予算 (千円)	前年度からの変更点
1. 生涯学習推進事業										
(1) 公民館講座推進事業										
	中央公民館 公民館講座	中央公民館	現代社会に即応した各種講座を開催し、既存文化団体の育成や新たなサークルの結成を促進するとともに、市民活動や文化活動を通じて市民交流を図る。	全市民	延べ130名 4講座	268	①「睡眠」と「健康」の知恵袋 6/21、7/12 延べ12名 ②多肉植物の寄せ植え 9/13、20 延べ26名 ③スマホのスキルアップセミナー 2/18、19、25、3/5 延べ66名 ④大人の文化体験 3/20、3/23、3/25、3/29 延べ26名 【成果】 一部の講座の開催時間を夜間のみではなく昼間の時間帯も取り入れたところ、参加しやすいとの意見があり、参加者の需要に応えることができた。 【課題】 1 回完結型の講座とせず、複数回を1講座として実施する講座を増やす必要がある。また、毎年同じ内容を実施しないことが必要。 教材を事前に準備する事業である場合、直前のキャンセルについてはできないことをもっと周知するべきだったと考える。	4講座 60名	370	以下のとおり実施予定 内容の詳細については、協議中 6～7月（教養） 8～10月（能力向上） 11～1月（趣味） 1～3月（創作）
(2) 子ども文化活動推進事業										
	士別ふるさと体験広場 職業体験コース	社会教育課	地元企業と連携して、士別市の職業を体験する。	小学4～6年生	延べ37名	14	新聞記者、警察官、金融機関、建設業、消防士、羊飼いの職業体験を実施。 【成果】 市広報に参加児童の感想や、撮影した写真を掲載。感想を真剣に考えたり、積極的に質問するなど、意欲的に学習する姿が見られた。 【課題】 市街地校の児童しか参加していなかった。	延べ90名	103	第1回 塗装業体験 第2回 販売業体験 第3回 郵便局体験 第4回 農業体験 第5回 図書館司書体験 第6回 製菓店体験
	士別ふるさと体験広場 文化体験コース	中央公民館	地元文化団体の協力を得て、士別市の文化を体験する。	小学4～6年生	延べ52名	100	「バルーンアート」「政和アートFES」「ミニ畳づくり」「油絵体験」「将棋体験」を実施。 【成果】 文化芸術活動などの体験を通して、伝統文化の魅力や歴史を学び子どもの健全育成が図られた。 【課題】 内容がものづくりに偏ってしまった。	延べ90名	130	第1回 羊毛クラフト 第2回 茶道体験 第3回 油絵体験① 第4回 油絵体験② 第5回 吹奏楽体験 第6回 囲碁体験
	士別ふるさと体験広場 自然歴史体験コース	博物館	体験を通して、士別の自然や歴史を学ぶ。	小学4～6年生	延べ49名	86	士別歴史たんけん、昆虫採集、川の生き物さがし、川の生き物探し（トヨタ特別会）、勾玉づくり体験、科学体験、雪と氷の実験を実施。 【成果】 活動をおして地域の歴史や自然を学び、ふるさとへの理解や関心を深めることができた。 【課題】 振り返りで子どもたちにとってどのような学習があったのかを集計してはいるが、その後の実際の子どもの変化については見えにくい。	延べ90名	136	第1回 自然散策と木の名札づくり 第2回 火起こし体験 第3回 昆虫採集 第4回 川の生き物さがし 第5回 まが玉づくり 第6回 雪と氷の実験
(3) 高齢者学習推進事業										
	高齢者学習推進事業 九十九大学 学び舎「つくも」	中央公民館	「集い・学び・交流」をとおして高齢者の生きがいづくりを推進するとともに、同世代の広い繋がりを構築することを目的として、基礎講座と自主企画活動を実施する。 なお、九十九大学は、本事業と統合して実施する。	60歳以上の市民	77名 30回	576	基礎講座3コース（北海道学・教養・暮らし）を各10講座、計30講座実施済。 自主企画活動は3団体（コーラス、スマホ教室、つくも親睦会）が活動。 定員80人に対し、登録者数77人（大学関係7人、他登録70人）。 【成果】 登録者へのアンケート結果から、各講座に対する評価は比較的高く、対象者のニーズに沿った事業を展開できたことと推察する。 【課題】 座学形式の基礎講座が多くなってしまったため、体験型の比率を増やす必要があると考える。	100名	878	6月から基礎講座3コース（北海道学・教養・暮らし）で実施予定。 令和4年度の課題解決のため体験型講座の比率を増やして、講座内容を編成。
(4) チャレンジスクール補助事業										
	チャレンジスクール補助事業	中央公民館	望ましい生活習慣・学習習慣定着を目指して、3泊4日の宿泊体験活動を実施する。	小学4年生		0	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。	20名	420	10月上旬に実施予定。

## 中央公民館事業 報告・計画

番号	事業名	担当	事業内容	対象	R4実績			R5計画		
					参加人数 実施回数	決算 (千円)	成果・課題	想定 人数/回数	予算 (千円)	前年度からの変更点
2. 市民学習自主企画支援事業										
(1) 市民自主企画事業 (マイプラン・マイスタディ)										
	市民自主企画事業 (マイプラン・マイスタディ)	中央公民館	市内の各種団体やサークルが、市民を対象に自主的に企画した学習事業費の一部を支援し、学習機会の拡大及び団体等の活性化を図る。	市民団体等	4団体 68名	36	○姉崎久志氏講演会実行委員会 5/22 13名 ○初心者フラダンス体験会 6/23、30 延べ25名 ○サップに乗って親子で水上散歩 7/31 12名 ○いつまでも快適な動ける身体づくりトレーニング 2/19 18名 【成果】 市民団体の活性化、学習意識の向上が図られた。 【課題】 単発の事業にとどまることなく、団体等の自立に繋げることが課題。	8団体 120名	227	
3. 市民総合文化祭事業										
(1) 市民総合文化祭										
	市民総合文化祭中央地区会場	中央公民館	市民が日常で取り組む文化活動の学習成果の発表と作品を鑑賞する機会を提供するために市民総合文化祭を開催し、市民の文化活動に対する意識を高め、地域文化の向上を図る。	市民団体等 小・中・高校生	2,000名	182	○作品展示 27団体4個人673点 ○芸能発表 19団体1個人 士教研と翔雲高校の協力を得て児童生徒作品展示をいぶきにて実施、併せて土曜子ども文化村にて制作した絵画を展示した。 ○小学生135点 中学生48点 高校生38点 文化村12点 合計233点 【成果】 コロナの影響から参加団体は少なかったが、文化芸能の発表機会の創出及び活動の推進が図られた。 【課題】 参加団体の固定化・高齢化が課題。	作品展 1,500名 芸能発表 500名	330	
4. リーダー養成事業										
(1) 子ども会活動推進事業										
	子ども会リーダー養成講習会	中央公民館	士別市子ども会連絡協議会との共催。リーダーとして必要な基礎知識や技術の向上、さらには野外活動での体験学習を実施することにより、多くの経験と活動の幅を広げ、地域子ども会の活性化を図る。1市2町合同ジュニアリーダー研修会と合同開催。	小学5・6年生	-	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。	10名		1市2町合同ジュニアリーダー研修会と合同開催で実施予定。
	子ども会リーダー SINC交流研修会	中央公民館	SINCリーダーとしての指導力向上と仲間との交流を行う。	子ども会リーダー「SINC」	-	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。	3名		3月に交流研修会を実施予定。
	1市2町合同 ジュニアリーダー研修会	中央公民館	1市2町の小学5・6年生がリーダーとして必要な知識や技術の向上、さらには体験学習を実施することにより、友情の輪を広げ、地域子ども会の活性化を図る。	小学5・6年生	2	30	当初全3回を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1回の実施となった。 ・6/18 I期(士別参加者2名) 【成果】 体験活動を通して、リーダーとして必要な知識・技能を習得し、他町児童との交流を通して資質向上を図ることができた。 【課題】 事業の延期により、募集のたびに参加希望者が減少したため、感染症の拡大状況を考慮し、開催を確実にしてからの募集を心がけるべきだった。 また、サブリーダーの確保が難しい状況である。	3回 延べ39名	221	令和5年度は3回実施を予定。 年3回の内、1期、3期の2回を日帰りで実施予定。 夏の2期、野外研修のみ、宿泊形式で実施予定。 第1回 剣淵町 第2回 士別市 第3回 和寒町
	他市町子ども会リーダー交流事業	中央公民館	他市町リーダー研修会に参加し、子ども達の交流の輪を広げ、子ども達の成長を図る。		-	-	当初は、11月に実行委員会、翌年3月に研修会の実施を予定していたが、各市町のリーダー活動が停滞しており実施できる状況にないことから中止となった。	3名		実行委員会(11月)、交流事業(3月)で実施予定。

## 中央公民館事業 報告・計画

番号	事業名	担当	事業内容	対象	R4実績			R5計画		
					参加人数 実施回数	決算 (千円)	成果・課題	想定 人数/回数	予算 (千円)	前年度からの変更点
5. 子どもまちづくり参画事業										
(1) 子ども議会開催事業										
	子ども議会開催事業	中央公民館	市内中学生の「まちづくり」への興味・関心を育み、子どもの自由な発想を生かした意見・要望を市政に反映させる。	中学生	7名	115	学習会(全5回)、本議会を開催(子ども議員7名 12月21日開催) 報告会は、令和5年2月28日実施。 【成果】子どもたちが調査・研究をとおして、市政に興味を持ち、自らの資質向上が図られた。感想として自信がついたなど前向きな感想が得られた。 【課題】年度スケジュールとしては余裕を持って取り組めたが、質問通告書作成時期の期間が短く、事前の準備に工夫の余地があると感じた。質問通告書作成時期は個別に活動するため、中間発表の場として子ども議員が集まる場を作りたいと考える。	8名	165	対象：市内中学生(4校) 内容：学習会4回、本会議(10月10日)、報告会を実施予定
(2) こども夢トーク推進事業										
	こども夢トーク事業	中央公民館	子どもたちが市長と夢や未来への希望を語り、好奇心・探究心を高め、子どもたちの持つ豊かな可能性を広げる。	士別中学校生徒 多寄小学校生徒	士別中学校 7名 多寄小学校 8名	18	○士別中学校 令和4年11月30日 ○多寄小学校 令和5年2月21日 【成果】子ども議会との差別化を図るため、市長と直接語ることに重点を置き、ディスカッション形式に変更した。 【課題】	3校	36	士別小学校、温根別小学校、上士別中学校で実施予定。
6. 団体育成・支援事業										
(1) 子どもの体験活動の充実と望ましい生活習慣の定着(社会教育課・中央公民館)										
	子ども会育成連絡協議会補助事業費	中央公民館	子ども会の事業を推進する士別市子ども会育成連絡協議会に対し、運営事業費の一部を補助する。	士別市子ども会育成連絡協議会	1回	300	当初700千円の補助予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した「しべつわんぱくフェスティバル」「北海道かるた大会」等の補助金額を減額。 【成果】市の地域子ども会育成会との連絡調整を図った。 【課題】新型コロナウイルス感染症状況下における事業のあり方、少子化に伴う参加者の減少。	1回	700	【士別市子ども会育成連絡協議会より】わんぱくフェスティバルを5月から9月に変更し実施予定。
7. 中央公民館分館事業										
(1) 中士別分館										
	中士別分館事業	中央公民館	地域住民の生涯学習活動を推進し、地域の活性化を図る。	一般	31講座	102	実績は、別紙の通り 【成果】各講座への参加により、市民交流と親睦が図られた。 【課題】少子化の影響により子どもの事業が実施できない。講座内容の慣例化、参加者数の減少。	25講座	127	
(2) 下士別分館										
	下士別分館事業	中央公民館	地域住民の生涯学習活動を推進し、地域の活性化を図る。	一般	3講座	70	実績は、別紙の通り 【成果】各講座への参加により、市民交流と親睦が図られた。 【課題】少子化の影響により子どもの事業が実施できない。講座内容の慣例化、参加者数の減少。	3講座	127	
(3) 武徳分館										
	武徳分館事業	中央公民館	地域住民の生涯学習活動を推進し、地域の活性化を図る。	一般	6講座	126	実績は、別紙の通り 【成果】各講座への参加により、市民交流と親睦が図られた。婦人会の活動が活発であり、様々な講座が開催できている。 【課題】講座内容の慣例化、広報誌の記事収集に苦慮。	8講座	127	

令和4年度 事業報告（活動報告済分）

資料2

分館名 中士別分館

事業名	新規 継続	主催後援	実施 期日	会 場	対象	回数	参加 人数	決算 (千円)	事業概要等
民謡講習会	継続	主催	4～10月 平均2回	自治会館	一般	24	96	75	講師：長谷川キク
パークゴルフ講習会	継続	主催	7～11月	多寄農村広場PG場 天塩川PG場 他	一般	7	71	21	講師：谷村 隆俊
長寿番付	継続	主催	12月1日	—	一般	1	—	—	中士別町民75歳以上を対象としその確認と把握 男女年齢別で番付
分館だより	継続	主催	12月16日	—	一般	1	—	—	分館活動報告と案内
「睡眠」と「健康」の 知恵袋講座	新規	主催	1月30日	—	一般	1	23	0	講師：明治安田生命
事務消耗品購入	継続	—	—	—	—	—	—	6	事務消耗品の購入
								合計	102

分館名 下士別分館

事業名	新規 継続	主催後援	実施 期日	会 場	対象	回数	参加 人数	決算 (千円)	事業概要等
広報「つながり」発行	継続	主催	通年	—	—	12	—	—	自治会と分館との合同広報誌発行
下士別パークゴルフ講 習会	継続	主催	6月5日	天塩川緑地PG場	一般	1	19	15	P Gの技術向上及び健康維持促進を図る 講師：村上 昭治・足利 雅幸・今野 和史
士別市総合防災訓練	新規	共催	9月1日	下士別会館	一般	1	—	—	災害や緊急事態に備え、適切な対応を学び、防 災意識の向上を図る。
しめ縄飾り講習会	継続	主催	12月27日	下士別二之宮 八幡神社	一般	1	14	10	しめ縄の作りかたの伝承。 講師：藤田良治、飛世薫
事務消耗品購入	継続	—	—	—	—	—	—	45	事務消耗品の購入
								合計	70

分館名 武徳分館

事業名	新規 継続	主催後援	実施 期日	会 場	対象	回数	参加 人数	決算 (千円)	事業概要等
広報「武徳」の発行	継続	武徳分館 武徳自治会	通年	—	—	11	—	—	武徳町内の情報発信を目的に発行
食生活改善栄養講座	新規	武徳分館 武徳女性部	11月18日	武徳会館	一般	1	8	15	適正体重を維持するための栄養講座 講師：鈴木直美、田邊裕子
料理講習会	新規	武徳分館 若妻会	1月12日	武徳会館	一般	1	11	15	健康の保持・増進 講師：石橋房枝、山岸由美
ストレッチ講習会	継続	武徳分館 女性部	1月16日	武徳会館	一般	1	11	7	健康の保持・増進 講師：三浦美加
卓球ルール講習会	継続	武徳分館 女性部	1月16日	武徳会館	一般	1	11	8	健康体力の維持を目的に卓球の実践 講師：溝渕和恵
手づくり宝石石鹸	継続	武徳分館 若妻会	1月25日	武徳会館	一般	1	9	15	気軽に楽しめる石けんづくり 講師：山崎さくら、佐々木陽子
体幹トレーニング講習	継続	武徳分館 スポーツ愛好会	1月30日	武徳会館	一般	1	9	8	体幹を鍛える 講師：田辺裕子
事務消耗品購入	継続	—	—	—	—	—	—	58	事務消耗品の購入
								合計	126

## 令和 5 年度 中央公民館分館（武徳・中士別・下士別） 事業計画

月	武徳分館	中士別分館	下士別分館
通年	広報武徳の発行 新生児の祝い	委員会会議	分館だよりの発行 ※不定期
4月	第1回運営委員会 評議委員会 分館長・主事打合せ会議	公民館分館長・主事会議	公民館分館長・主事会議
5月			
6月			パークゴルフ講習会
7月	評議委員会		町民パークゴルフ大会
8月	書道作品作成 町民交流会		下士別神社祭典協力
9月			
10月			
11月	料理講習会	長者番付表作成	
12月	料理講習会 第2回運営委員会 研修・講習会		しめ縄作り講習会
1月	冬季町民交流会 講習会	分館だよりの発行 講演会	
2月	スポーツ交流会	講習会	
3月			活動反省 定期総会

## 令和5年度 士別市中央公民館運営方針（案）

市民一人ひとりが、自己の人格を磨き、楽しく豊かな人生を送ることができるよう、公民館の学習環境を整備し、市民の学習機会の拡充を支援する。

### 【基本目標】

1. 市民が気軽に集える場所となるように努める。
2. あらゆる世代の学習機会の支援に努める。
3. 市民主体の事業運営に努める。
4. 市民に対して公民館活動の情報を的確に提供するように努める。
5. 市民が安全に学習できるよう、学習環境の整備に努める。
6. 文化団体・サークルの育成、支援に努める。
7. 中央公民館分館の支援に努める。

### 【職員の心構え】

公民館職員は、

1. 公民館の仕事を好きになること。
2. 市民に心を開き、気楽に交流（対話）できること。
3. 自分から進んで動くことができること。
4. 士別を好きになること。
5. そして何よりも大事なことは、一人の人間として魅力的であること。

### 【公民館運営】

公民館活動の満足度がより高まることをめざして、「士別市中央公民館運営審議会」と「士別市中央公民館」は、共に協議し、公民館の運営を行う。

#### 1. 学習環境を整備する

市民の誰もが「学びたい」と思ったときに、いつでも自由に学べる場を設置・運営するのは行政の役割であり、公民館はそのための施設である。

また、公民館の運営は、障がいのある方や高齢者など社会参加をするうえで何らかの制約の多い市民に対して、特段の注意を払い運営する必要がある。

#### 2. 人や団体（サークル）の出会いとつながりをつくる

公民館に集い学ぶことは、市民が自由に会うことでもある。

公民館が主催する講座や教室は、講師と参加者個人が対一の関係に終始することはなく講師と参加者、参加者と職員、参加者同士の意思疎通や意見交換による相互理解をすることにより、公民館に集う市民や異世代の市民の交流も可能となる。

#### 3. 市民の文化活動の拠点

さまざまな世代の市民が、日常生活の中で多様な文化活動を主体的に行っている。

中央公民館でも創作活動や文化活動が行われ、その成果の発表の場としても活用されており、文化活動の拠点としての役割を担う。

中央公民館は、独立した建物を持たないが、市民文化センター内に事務所を置き、職員を配置し、市民のさまざまな文化活動や学習活動が円滑に行われるよう業務を行っている。

#### 4. 中央公民館運営審議会（以下、『公運審』）

公運審は、公民館を支え、発展させていくために大切な任務を負う。公運審委員は、市民の代表として、市民のさまざまな要望やニーズ、さらには地域課題、生活課題等を把握し、それを公民館運営（事業）に反映させるため、公民館職員と情報交換や意見交換を適宜行い、よりよい公民館を実現することが大切である。

そのために公運審委員は、より積極的に公民館と関わりを持つべきである。具体的には、公民館事業との関わりであり、次年度事業の計画・立案の段階から話し合いに加わるのが肝要である。

こうした議論の場が継続され、議論が活発化されることの前提条件としては、日常的に各委員ができるだけ多くの事業に関わりを持ち、市民の生の声を聴取し、計画立案に反映することにより、市民の求める事業展開が可能となる。

#### 5. 公民館における「評価」

公民館の評価の目的は、よりよい公民館運営を行うことであり、公民館の評価は数値目標だけで測るべきでなく、事業内容や参加者の意識の深まり、学習成果が重要であり、単に参加者数のみで評価を行うのは意味がなく、講座等の受講者にとって有意義かつ納得・満足のできる事業につながるような評価が重要である。

また、公民館事業は「市民が主体」であり、市民の視点で事業を推進することが最も大切であることから、事業終了後のアンケートで、内容、状況、結果の検証等を実施することが必要である。その際には、目的や方法を共有するなど、創意・工夫が必要である。

### 【士別市中央公民館の事業】

1. 生涯学習推進事業
  - ・公民館講座　・士別ふるさと体験広場　・学び舎「つくも」　・チャレンジスクール
2. 市民学習自主企画支援事業
  - ・マイプランマイスタディ
3. 市民総合文化祭事業
  - ・中央地区市民総合文化祭
4. リーダー養成事業
  - ・子ども会リーダー養成講習会　・1市2町合同ジュニアリーダー研修会　など
5. 子どもまちづくり参画事業
  - ・子ども議会　・こども夢トーク
6. 団体育成・支援事業
7. 中央公民館分館事業